

第三者評価結果の公表事項（児童養護施設）

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク 「一期一会」

②施設名等

名 称： 舞鶴双葉寮

種 別： 児童養護施設

施設長氏名： 仙田修二

定 員： 70名

所 在 地： 舞鶴市桃山町7番地5

T E L： 0773-62-0122

③実施調査日

平成27年3月2日（月）～ 月 日（ ）

④総評

舞鶴双葉寮は昭和21年、戦災引き揚げ孤児のため、縫製工場の一室から開始され、今年で69年目を迎える定員70名の児童養護施設です。東舞鶴駅より徒歩数分圏内ですが、自然豊かな山裾にあり、閑静な住宅街の中にあります。事業としては、地域の中にグループホームを2年前に開設され、6名が生活しています。また、地域の子供も対象にした子育て短期支援事業（デイ・ショート・トワイライトの各サービス事業）、放課後児童健全育成事業を実施しています。施設は、大舎制ですが、家族的な雰囲気の中できめ細かな支援が行われています。将来の自立に向けた、料理や経済観念を学ぶプログラムなどに取り組んでいます。また、卒業後のアフターケアにも力を入れており、卒業生が帰省してきたり、入所中の子供に進路のアドバイスをするなどの交流もあります。職員に対する信頼があるからこそ現れであり高く評価できます。地域との関係も良好で地域の清掃への参加、積雪時のゆきかき、施設行事への招待等、地域との密な交流が行われています。今後も舞鶴市のこども支援の拠点として発展されることを期待します。

◇特に評価が高い点

【自立に向けた支援】

・将来、自立した生活が送れるように、社会経験、経済観念の習得、調理や洗濯といった家事経験などを年齢に応じて行うことができるよう支援しています。

・子どもたちで運営する『のびゆく会』にて子どもがイベントを主体的に企画、運営しています。

【アフターケア】

・就職後も就業の定着が図れない可能性があるため、3ヶ月の措置延長を実施しています。また、退所後の子どもにも、職員が出張時に自宅訪問や食事を一緒に取って話を聞くなどの確認を行っています。

【地域支援・ボランティア】

・他者の尊重に対する取り組みとして、地域の掃除や雪かき、東北大震災の被災地にボランティアに向くなどの取り組みが行われています。

地域の清掃への参加、積雪時のゆきかき、地域の祭りへの参加等、地域との密な交流が行われています。学校の裏山の竹の伐採、近隣高齢者宅の雪下ろしなど地域から手伝いをお願いされることもあります。また、寮の行事は地域の回覧板で案内し、クリスマス会や運動会には地域の方が100～200名が参加しています。地域のクラブサークルへの運動場の貸し出し等を行っています。

・大規模災害時の地域貢献について検討をしています。

・リフォーム、自転車の修理、お米作りなど様々な形のボランティアが関わっています。ボランティア受け入れに際しては誓約書の記入がなされています。地域の民生委員が見学に訪れています。

◇改善が求められる点

【自立支援計画・記録】

・自立支援計画を策定については本人の意向を把握するとともに複数職員による情報共有と課題検討を行っています。定期的見直しの手順等の整備は現在進めているところで、実際の支援に機能していると言いつい難いところがあります。計画の策定の手順、支援との連動性について検討されてははいかがでしょうか。

・記録については、職員間の記録の仕方に差異がみられます。また、「記録等の管理、廃棄マニュアル」「個人情報の保護規定」が策定され、職員に周知されていますが、記録管理の責任者が決められているが、明示されていません。

記録に関する研修の実施、責任者の明示を含めたマニュアル類の整備をされてははいかがでしょうか。

【中長期的なビジョンと計画の策定】

・事業計画は策定されていますが、中長期計画との整合性が十分に図れていませんでした。また、事業計画の見直しおよび進捗状況の確認ができていませんでした。

【各マニュアル類の整備】

・「プライバシー保護マニュアル」が策定されているが職員への研修が不十分でした。
・マニュアル被措置児童等虐待の届け出・通告に対する対応についてマニュアル等の整備、体制整備等が不十分でした。
・各種マニュアル類については確認できましたが、見直しや手順については不十分でした。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

改善が求められる項目については、すぐに対応できることは早急に対応し、難しい項目に関しては、順次取り組んでいきたいと考えています。

今回の評価を受けてみて、日々の忙しさにまぎれ、自分たちの仕事に対する意識が不十分であった点などを考える事ができました。

そして子ども達と歩む力を評価結果からいただきました。ありがとうございました。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
②	基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③	子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
④	発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤	秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、自立した生活が送れるよう、都市部での地下鉄利用等をはじめとする社会経験、調理や洗濯といった家事経験などを年齢に応じて行うことができるよう支援している。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学的知見については現状の職員だけでは不十分だと考えている。現在は臨床心理士は配置されていないが、心理的対応をするために、建物の立て替えの際には専用の部屋を作り、臨床心理士の配置を検討している。 ・朝の時間帯については職員の人数が確保できていないため十分な配慮ができていない。 ・職員が手本となるよう心がけているが、葬儀マナー、子育ての仕方など施設内では見せることのできないものについては、不十分と考えている。 		
(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
②	子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③	子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活		
①	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	b
②	子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活		
①	居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
②	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事については、嗜好調査を実施するなど、子どもの意見を取り入れながら、暖かいものを陶器の器で提供している。また、職員は子どもの様子を見ながら、声をかけるなどコミュニケーションをとっていた。また、嗜好調査の結果は見やすく楽しめるようなランキング形式で食堂内に掲示されていた。食事については外食を取り入れたり、週に2回はテーブルマナーを学べるよう、洋食を提供したり、箸の持ち方等については日常的に指導している。 ・衣生活は子どもが希望する店に買いに行くなど、衣服を通じた自己表現ができるような支援が行われている。 ・居室の清掃に加え、施設全体の掃除について当番を決めて行っている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔で季節に合った衣服を着用できるように支援しているが、それまでの家庭環境等から習慣づけるまでに至らない子どもがおり、職員の努力の余地があると考えている。 ・住生活については、大舎制であり、個室の空間が十分に確保できていないと認識している。 		

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ等の感染症にかからないよう、手洗い、うがいの徹底、インフルエンザ予防接種等が行われている。 ・性に関する教育については力を入れており、年齢ではなく、子どもひとりひとりの必要度に応じてグループを作り、グループごとに担当を決めて1年単位の計画を立てて教育を実施している。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルの作成等必要な対応がなされているが、新しく入所した子どもの平熱が把握できておらず、不十分と感じている。 	

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服やシャンプーなど、基本的には個人の趣向や希望に合わせている。 ・子どもひとりひとりにアルバムが用意され、自分のルーツを知るためにいつでも見れるようにしている。職員の手によってコメントや日付がカラフルな吹き出しなどで装飾されている。 ・子どもたちで運営する『のびゆく会』にて子どもがイベントを主体的に企画、運営している。 ・施設内には音楽、料理等のサークルがあり、希望者が参加している。また地域のフットサルサークルに参加したり、学校のクラブ活動に参加している子どももいる。また、施設内には新聞が3紙取られており自由に読むことができる。 ・子どもの発達段階に応じて経済観念が身につくよう支援している。小中学生には小遣い帳をつけるように指導し、決められた範囲で金銭を使うように指導が行われている。また、高校生に対しては貯金についても指導し、退所の際してお金がどのくらい必要かについて学習が行われている。 	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路については本人の希望を最大限尊重し、保護者や児童相談所とも相談しながら進路を決めている。また、長期休みを使いアルバイトを経験させたり、卒業生との交流を通して将来を考える場を整えている。子どものニーズに合わせた社会経験を積む機会作りを努めている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の時間には職員が必ずそばについて支援を行っている。また、必要に応じて学習塾に通わせるなど、学力向上のための支援も行っているが、入所時に学習の習慣が身につけていない子どもが多く不十分と感じている。 	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や児童相談所等と連携をとり、子どもの生育歴、障害等を考慮した上で必要な支援を行っている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内でいじめや差別等が生じないように努めているが、職員間での考え方の違いから十分にできているとは言えない。 ・児童相談所との連携の中で専門家からの直接的支援を受ける体制が整えられているが、心理の有資格者が配置されていない。 	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職後も就業の定着が図れない可能性があるため、3ヶ月の措置延長を実施している。 ・また、退所後の子どもにも、職員が出張時に自宅訪問や食事を一緒に取って話を聞くなどの確認を行っている。 <p>【改善が求められるもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所した子どもにも気を配っているが、これまでに引き継ぎ文書を必要とするケースがなかったため、整備が不十分である。家庭復帰後の支援については学校等からの報告はあるものの、地域での生活についての情報把握が不十分である。 	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所等と密に連携をしながら、保護者からの相談に対応している。 <p>【改善が求められるもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子の関係作りには努めているが、親子が一緒に過ごされるための宿泊設備が設けられていない。 ・一時帰省や外泊などは実施しているが、保護者との関係性を壊してしまう可能性があるため、保護者に対するアドバイスは児童相談所に任せているところがあり、不十分である。 	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的に実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、一時間程度の引き継ぎ会議を行い、日々の情報共有がなされている。引き継ぎ内容は日誌によって周知されている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援計画を策定については本人の意向を把握するとともに、複数職員による情報共有と課題検討を行っている。定期的見直しの手順等の整備については現在検討中であり、実際の支援に機能していると言いが難しいところがある。 ・記録については、職員間の記録の仕方に差異がみられる。 ・「記録等の管理、廃棄マニュアル」「個人情報の保護規定」が策定され、職員に周知されているが、記録管理の責任者が設置されていない。 	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の思想や信教の自由が保障されている。 ・携帯電話の所持について高校生自身が検討会をするなど、子どもの意向を把握し、それに基づいたルールづくりや養育、支援を進める等が行われている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不適切な関わりの事例について」という事例集を作り、理念、基本方針、基本姿勢に基づいた支援を実施しているが、十分ではないと認識している。 ・養育・支援の内容が適切かどうかについて職員会議等で検討しているが、スーパービジョンが不十分である。 ・「プライバシー保護マニュアル」が策定されているが職員への研修が不十分である。 	

(3) 入所時の説明等		第三者 評価結果
①	子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③	子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
(4) 権利についての説明		
①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境		
①	子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
②	苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③	子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	c
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の見学を受け入れるとともに、必要に応じて当該児童のところへ施設職員が出向いて説明するなどが行われている。 『のびゆく会』など、子どもそれぞれの意見が大切にされる機会が作られている。 <p>また、子どもからの意見や要望については「のびゆく会」「職員会議」で検討し、必ず子どもに返答をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の尊重に対する取り組みとしては、地域の掃除や雪かき、東北大地震の被災地にボランティアに出向くなどの取り組みが行われている。 『不適切な関わり事例について』という事例集を作成し、研修や話し合いが行われている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設紹介の資料は作成されているが、ホームページが作成されていない。 受け入れ時の配慮は十分になされているが、入所時の手順が定められていない。 相談や意見を述べやすい雰囲気やスペースが作られており、子どもの様子を見て職員から話しかけたりしているが、誰に対しても相談ができる体制があることを伝える文書が整備されていない。 また、苦情解決の仕組みは整備されているが、子どもや保護者への周知と、苦情を申し出やすい工夫が不十分である。 被措置児童等虐待の届け出・通告に対する対応についてマニュアル等の整備、体制整備等が不十分である。 		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した避難訓練を実施している。また、『防災マニュアル』が策定されており、災害に備えた食料や備品の備蓄がなされている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「事故対応マニュアル」が整備されているが、責任体制が明確になっていない。また、安全確保に関する担当者・担当部署の設置ができていない。 災害や事故発生に備えた、危険箇所の点検や避難訓練を実施しているが、ひやりはっと事例の収集、分析が不十分である。 		

6 関係機関連携・地域支援

		第三者 評価結果
(1)	関係機関等の連携	
	① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
	② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
	③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)	地域との交流	
	① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
	② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3)	地域支援	
	① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a
	② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
【特に評価が高い点】		
<ul style="list-style-type: none"> ・「関係機関一覧表」を作成し、職員に配布している。 ・児童相談所と日常的にやりとりが行われている。また、『要保護児童対策地域協議会』に参加している。職員が学校に出向いたり、また先生が施設を訪れたり等、日常的に学校とのやりとりが行われている。 ・地域の清掃への参加、積雪時のゆきかき、地域の祭りへの参加等、地域との密な交流が行われている。学校の裏山の竹の伐採、近隣高齢者宅の雪下ろしなど地域から手伝いをお願いされることも多い。また、寮の行事は地域の回覧板で案内し、クリスマス会や運動会には地域の方が100～200名が参加している。地域のクラブサークルへの運動場の貸し出し等を行っている。また、大規模災害時の地域貢献について検討をしている。 ・リフォーム、自転車の修理、お米作りなど様々な形のボランティアが関わっている。ボランティア受け入れに際しては誓約書の記入がなされている。地域の民生委員が見学に訪れている。 ・事業所が実施するイベント等には入所している子ども以外の子どもに対しても、参加を促している。入所施設を運営しているメリットを活かし、他の学童保育が終了したあとの時間も子どもを預かり、必要に応じて食事の提供もを行っている。 		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
	① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
	② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
	④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
【特に評価が高い点】		
<ul style="list-style-type: none"> ・「職員の基本姿勢」の中に組織が職員に求める基本的姿勢や意識が明示されている。 ・職員に対する支援方法の助言や指導などについて、施設長、主任がスーパーバイザーの役割を担っている。 		
【改善が求められる点】		
<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加した職員は必ず研修内容の報告、伝達研修を行っているが、研修成果に関する評価・分析ができていない。 		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人・施設の運営理念がパンフレット等に記載されている。ホームページは作成されていないが、次年度の公開に向けて現在準備中である。また、基本方針が文書に記載され、理念との整合性も確保されている。職員に対して運営理念や基本方針について職員に対して年度初めに説明をしている。子どもに対しては「のびゆく会」（入所児童の自治会）で説明をしている。それに加え、日常的なやりとりの中で話をしている。 小規模ケア、家庭的養護を推進するための、建物の改築、新規施設の開設を柱とした計画が策定されている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画は策定されているが、中長期計画との整合性が十分に図れていない。 事業計画の見直しおよび進捗状況の確認ができていない。 行事の年間計画などについて口頭での説明がなされているが、資料の作成等に工夫が必要。 	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設長は施設で行われる会議のほぼ全てに参加し、情報の把握から助言等までを行っている。 地域の実情を把握した上で、放課後児童の受け入れなどについて、住んでいる地域が対象地域から外れているなどの理由で舞鶴市のサービス受けられない児童についても、施設独自のサービスで受け入れている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理運営規定に施設長の役割が明記されているが、広報誌、ホームページ等を通じた表明が不十分である。 施設長は種々の研修会に参加し、その内容を職員に周知しているがリスト化ができていない。 建物の改築に伴う、本体施設の定員減を見据えた今後の課題解決に向けてグループホームの新設等、課題改善に向けた取り組みを進めている。 	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の施設運営を見据えた『人事確保計画』が策定されており、有資格者の確保について等が記載されている。 ・共済会に加入し職員の福利厚生を図るとともに、職員旅行、懇親会等が実施されている。 ・『施設実習マニュアル』が整備されている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事考課は行われていない。 ・施設長が有給取得率、残業時間の管理等を行っている。また、必要に応じて幹部職員による職員のヒアリングが行われている。ヒアリングの際には、職員が話をしやすい幹部職員が対応するように配慮がなされている。しかし、外部カウンセラーの紹介・連携がなされていない。 	
(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるような仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿直対応マニュアル、事故対応マニュアル、衛生管理マニュアル等が整備され周知がなされている。 ・毎年複数のグループを作って自己評価を実施するとともに、定期的に第三者評価の受診をしている。 <p>【改善が求められる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの定期的な見直しがなされていない。 ・評価結果の分析が行われているが、改善実施計画が策定されていない。 	